

クラス番号	709	担当教員名	片岡 幸雄
テーマ	福祉・保健・医療の変化の中でMSWの役割と課題を考える		
著書・論文 研究課題等	「福祉・介護に求められる生活アセスメント」(共著) 中央法規 2007 年 「医療のなかでいかに社会福祉を实践するか～医療ソーシャルワーカーの揺らぎ～」『医療ソーシャルワーク』93 号 愛知県医療ソーシャルワーカー協会 2006 年 「日本医療社会事業協会の国家資格制度化運動をふりかえる」『医療ソーシャルワーカー新時代 地域医療と国家資格』(共著) 勁草書房 2005 年 研究課題：医療ソーシャルワーク MSW資格制度化問題(専門職, 専門性) 生活アセスメント		
ゼミナール概要			
キーワード：医療ソーシャルワーク MSW業務指針 MSW資格制度化問題 生活アセスメント			
目的、内容、目標： 1990 年代には、在宅療養の推進と在宅における介護体制の整備、医療機関の機能分担の明確化と地域連携の促進がいわれました(「病院完結型」から「地域連携・地域完結型」へ)。2000 年代に入って地域を基礎にした「在宅」重視がより鮮明になってきています。 福祉・保健・医療の変化のなかで、医療ソーシャルワーカー(以下、MSWという)の業務も多様化してきています。急性期病院、回復期リハビリ病棟、療養型病床、老人保健施設では、MSWの本来の役割とともに、それぞれの機関・施設での役割を担っていくことが求められています。 在院日数を短縮のための「効率」な退院・転院援助、地域との連携を重視した在宅復帰援助、そうした取り組みにおいて退院支援看護師と競合する場面や、MSWから介護支援専門員にとって代わる場面も出てきています。今、求められていることは、メディカル、コ・メディカルスタッフとMSWがお互いの専門性が生かし、尊重し合えるメンバーとしてリエゾン(連携)を進めシームレス(継目のない)な援助を展開すること。退院・退所後の患者・家族の生活を見据えた援助が必要です。 1989 年(2002 年改正)に発表された「医療ソーシャルワーカー業務指針」ではMSWの役割が示されています。その有用性からますます必要性が増大しています。患者と家族の生活全体を丸ごと「みる」なかで、ニーズを発見して必要な援助をしていくことがMSWの役割であり、医療ソーシャルワークの基本であると考えています。 MSWとして援助の軸をどこにおくのか、このことが非常に大きな意味をもっています。たんにサービスを当てはめる、結びつけることではない。一定の経験と知識があれば、どのようなサービスが必要かはすぐにわかることです。 患者・家族に寄り添い、その人の「生活」を丸ごととらえ、そこから援助を展開することを重視する。MSWの果たすべき役割を考えていきたい。MSWになるための国家資格は、今のところありません。では、誰でもなれるものなのか？ 社会福祉士でいいのか？ MSWとして必要なものとは？ そんなことも一緒に考えられたいと思っています。 MSWの立場から福祉・保健・医療・看護・介護の実態、特に医療福祉現場の状況を把握すること、そこで必要とされる医療ソーシャルワークの価値、知識、技術・方法を学び、MSWの役割と課題を一緒に考えていこう。			
ゼミの進め方： 主体的に課題(問題)意識をもって出席し、1回は発言するようにしよう。遅刻しない。 ① サブゼミ(グループ)ごとに、それぞれ取り組みたいテーマを決めて学習し発表します。 ② グループに分かれて病院見学を行います。できるだけ色々な機関・施設を選んで、病院の機能分化の実態、そこでのMSWの役割を観ていきたい。 ③ 現場のMSW(主にゼミの先輩)をゲスト講師に呼んで話を聞きます(3, 4年合同)。 ④ 患者と家族の生活全体を丸ごと「みる」ためのアセスメント「力」をつける学習をします。 ⑤ 3年の終わり頃から卒業論文の作成準備に取りかかります。社会福祉士国家試験対策等も行います。 ⑥ 3年の春休みには合宿を計画します。			
担当教員からのメッセージ			
MSWとしての 30 余年の現場での経験を生かし、MSWになりたいと思っている学生、MSWに関心・興味のある学生と一緒に MSWの役割と課題 を学んでいきたいと思っています。そして、ゼミで学ぶことを通してMSWをめざしてもらいたい。ゼミ生の「自己決定」と「主体性」を尊重したゼミ運営を行っています。主役は“ゼミ生”です。			